

福岡県米麦大豆生産改善速報 第2号

令和3年7月19日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

普通期水稻の生育概況と対策

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	6月18日～7月14日 (26日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	26.1	31.0	22.5	140	193
前年差(比)	+1.8	+2.4	+1.5	164	24
平年差(比)	+1.2	+1.9	+0.7	158	48

注) 平年は、1991～2020年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

6月18日～7月14日の気象状況は、平年より平均気温は1.2℃高く、日照時間は58%多く、降水量は52%少なかった。「夢つくし」の草丈は、平年より9%長く、主稈葉数は平年並であった。「元気つくし」では、草丈は平年より36～42%長く、茎数は平年並～14%多く、主稈葉数は1.2～1.3葉多かった。「ヒノヒカリ」では、草丈は35～44%長く、茎数は平年並～23%多く、主稈葉数は1.0～1.3葉多かった。「実りつくし」では、前6年と比べ、草丈は29%長く、茎数は20%多く、主稈葉数は1.2葉多かった。

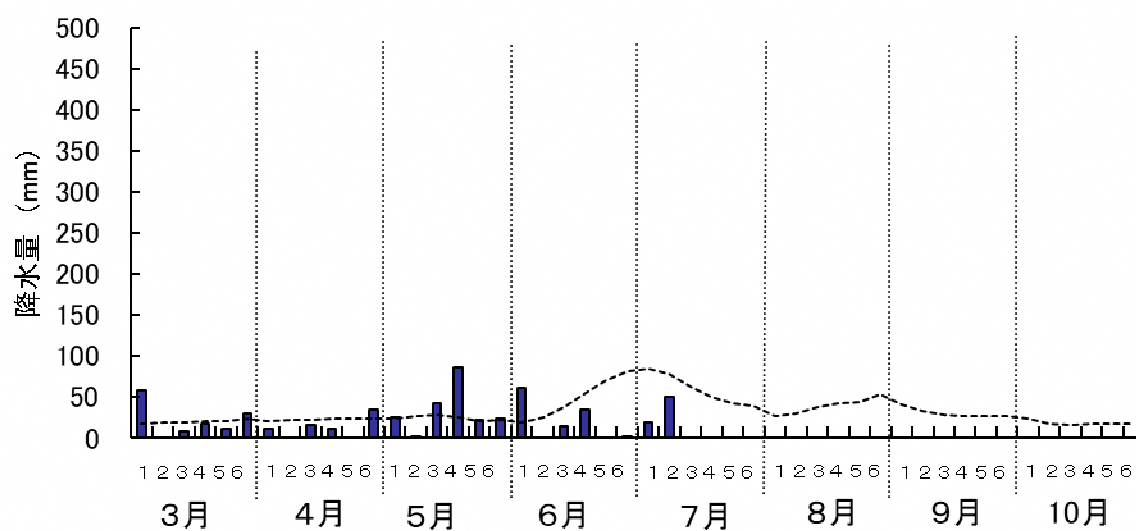
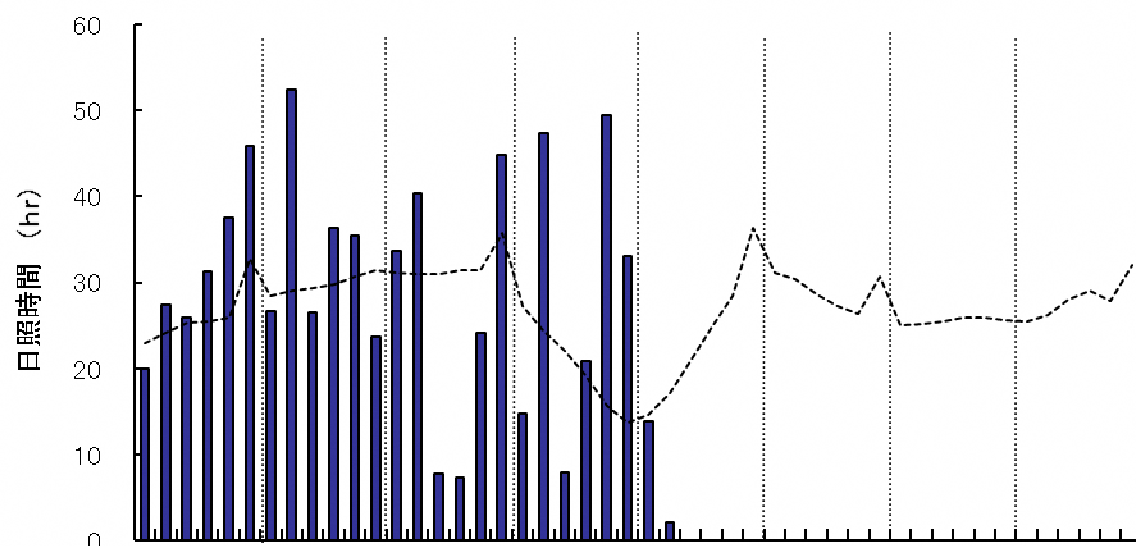
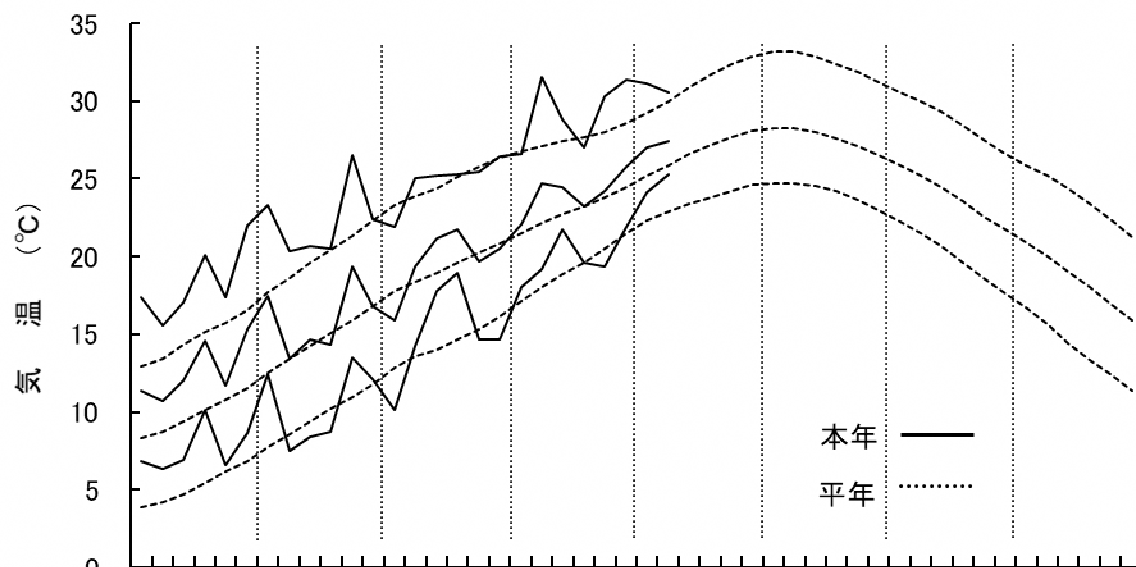
3. 当面の対策

- 1) 水 管 理 6月10日植の「夢つくし」の出穂期は8月8日頃と予想されるため、中干しを終了し、幼穂形成期以降は水を切らさないよう十分にかん水する。
6月中下旬植の早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し、有効茎が確保され次第、中干しを開始する。
- 2) 施 肥 6月10日植の「夢つくし」の穂肥施用時期は7月20日頃で、穂肥は生育診断に基づいて施用する。葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟粒が発生しやすくなることから、出穂前10日頃までに穂肥を施用する。
- 3) 病虫害防除 いもち病やウンカ類、コブノメイガの発生に注意する。本年はウンカ類やコブノメイガの飛来が早いため、ほ場での発生状況を早急に確認し、適期防除に努める。また、いもち病の常発地では、必ず初発時に防除を行う。葉いもちが多発した場合は、穂肥の施用量を減量する。
- 4) 雑草防除 雑草の発生が多いほ場では、中後期処理除草剤を処理する。
除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	移植期	品種	年次	移植期			7月15日		
				苗長 (cm)	苗齢 (L)	乾物重 (mg/本)	草丈 (cm)	m ² 当たり 茎数 (本)	主稈 葉数 (L)
農産部	6/10	夢つくし	本年	9.7	2.5	13.1	68	402	9.9
			前年比(差)	90	-0.2	85	112	92	+0.5
			平年比(差)	85	-0.2	78	109	90	-0.2
	6/18	元気つくし	本年	13.2	2.4	14.0	62	311	9.5
			前年比(差)	99	-0.1	85	120	111	+2.1
			平年比(差)	97	+0.1	92	136	101	+1.2
6/18	ヒノヒカリ	本年	10.7	2.8	13.0	52	329	9.4	
		前年比(差)	90	±0	89	125	130	+1.8	
		平年比(差)	92	+0.1	90	135	103	+1.0	
筑後分場	6/18	元気つくし	本年	12.8	2.6	16.8	64	444	9.6
			前年比(差)	103	+0.1	108	124	128	+1.9
			平年比(差)	99	+0.1	112	142	114	+1.3
	6/18	ヒノヒカリ	本年	10.4	2.6	15.0	56	518	9.7
			前年比(差)	84	-0.1	95	130	143	+1.9
			平年比(差)	91	-0.2	101	144	123	+1.3
6/18	実りつくし	本年	12.4	2.6	22.8	60	445	9.4	
		前年比(差)	95	+0.2	143	117	130	+1.8	
		前6年比(差)	98	+0.4	144	129	120	+1.2	

注 1) 平年値は過去10か年の平均値。
 2) この値は暫定値で、今後変更することがある。



2021年(令和3年)夏作期間の気象(太宰府アメダス)